

8月16日(金) 18:30~20:30 きゅりあん4階第一講習室 資料代 300円

特別講演『日本国憲法の危機—「戦争する日本」作りを阻止するために』

講師：立正大学教授 金子 勝さん

戦後「レジューム」を嫌悪する安倍内閣は今年2月、憲法96条「憲法改正の発議」の改正を明言しました。「維新の会」と「みんなの党」は、96条改憲の法律を共同提出することに合意しています。日本国憲法前文は侵略戦争の反省を世界に宣言したものです。また、9条は「戦争放棄」を高らかに呼びかけています。この憲法によってわたしたち国民はまもられてきました。

憲法を変え、歴史を巻き戻そうとする動きに、NO!の声を大きく突きつけるために、私たちはどうすればよいのでしょうか。

17日(土) 13:00~

・「コカリナ&ギター演奏」(品川コカリナアンサンブル・ギター嶋田昭治さん)

コカリナは自然の木で作られた楽器です。手のひらにのるこの小さな笛が「小鳥たちも人間も仲間だよ」と呼んでいるようです。コカリナの温かい音色が「平和の響き」となっていけたらと思っています。

「シャボン玉」「バラが咲いた」「森の水車」「青い空は」「故郷」ギター：乙女の祈り

・朗読「ひとりぼっちの人生(せいかつ)」から 浅見洋子さん(詩人)

1945年3月10日の東京大空襲から68年。浅見さんのご家族もこの空襲に見舞われ、人生を狂わされました。浅見さんは、長年被害者の方に寄り添い、その体験や思いを多くの詩にまとめられています。(元ニッポン放送テレフォン人生相談回答者。現在、学校安全事務局長。)

・東京大空襲訴訟 東京大空襲訴訟原告団 千葉利江さん

家族の歴史を知らなければ、人は自分を確立することはできません。国の歴史もきちんと教えられなければ、世界に通用する人間として自立することができません。東京には戦争の犠牲者を追悼し、戦争の惨禍を後世に伝える資料館もありません。何故なのか。裁判を通じて学んだこととお話します。

18日(日) 13:00~

・「原水爆禁止世界大会に参加して」品川平和のための連絡会・高校生平和ゼミナール
熱気あふれる今年の原水爆禁止世界大会で話題になったこと、多くの人に知らせたいこととお話します。

・三線(さんしん)演奏 照屋三線倶楽部

東大井で照屋正寛先生指導の下、毎週水曜日の夜唄三線のお稽古をしている倶楽部です。沖縄芸能を通して沖縄の歴史・平和の心も学んでいます。

しながわ 2013年 第30回

平和のための戦争展

—戦争をする国にさせないために—



1945年5月末。荏原町付近は焼け野原だった。 小島義一絵

とき 8月15日(木)~18日(日)

10時~19時30分(15日は17時まで)

ところ 品川区民ギャラリー(イトーヨーカドー大井町店8階)

京浜東北線・大井町線 大井町下車 徒歩1分

主催 しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先 03-5742-7563(西條明子) 03-3727-8382(扇谷道子)

小島さんの絵で見る品川の空襲 平和マップ 品川に残る戦争の足跡

品川区、特に戦前の荏原区は、空襲でほとんどまる焼けになりました。当時少年だった小島義一さんは、二度とこのようなことが起きないようにと、体験を絵に描きました。あなたの今住んでいるところは、焼け残ったところでしょうか。

品川区には戦争の足跡がまだたくさん残っています。親子で歩いてみませんか。

平和のこころを書で「命」 (ゆたかの家書道クラブ・すすき野句会)

今年は「命」をテーマにしてみんなで話し合い、言葉を考えこころを籠めて作品にしました。戦争で失われた尊い命、かけがえのない命の無念の叫びが、悲しみが聞こえてくるようです。沖縄追悼式典での1年生が読んだ詩に感動し書かせていただきました。

日本軍「慰安婦」を考える

1991年8月韓国の金学順(キムハクスン)さんが元日本軍「慰安婦」だった苦しい体験を初めて告発。これがきっかけとなりアジア各地の被害を受けた女性たちが名のりを上げ、日本政府に謝罪と賠償を求めて裁判も起こしました。この様な動きの中で、1993年8月、軍の関与と強制性を認めた「河野談話」。これを否定するような動きのある中、「慰安婦」を考えてみました。国連は、人権問題として「戦時性暴力」を禁止する決議をあげています。

戦争と子ども

この戦争展のスタートが学童疎開にかかわる部分が大きかったこともあり、今まで「こども」は国民学校初等科を中心に取り上げてきましたが、今回はその上の世代、当時の「中等学校」「高等学校」「国民学校高等科」(現在の中学校、高等学校の世代)の子どもたちの暮らしを知っていただきたいと思います。

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ そしてフクシマ

ヒロシマ・ナガサキの原爆で隠されてきた黒い雨、内部被曝。ビキニ水爆実験と第五福竜丸の被害。チェルノブイリ原発事故と内部被曝の恐ろしさを伝える子どもたち。

汚染水が海に流れ、放射能という目に見えない災害の中で大人も子どももこれまでと全くかわってしまった日常を過ごしている。政府は、未だ何も解決していないのに「収束」を宣言し、海外に「原発」を輸出しようとしている。そんな中、避難した家族、福島に残った家族、どちらも悩みながら厳しい選択をしている。子どもたちの作品や、福島を定点観測している写真、放射能流出、拡散を警告している群馬大学、早川由起夫氏のブログ等の資料から、「福島の今」を知り、「私たちにできること」を考えたい。

どう変えようとしているの？ 憲法・日米安保条約って？

9条改憲、集団的自衛権の行使を可能にすることを急ぐ自民党安倍政権は、日本をどのような国にしようとしているのか？自民党改憲案の「改変」点を中心に展示しました。

沖縄で起きた米軍機墜落事故から1週間で、県民の事故究明の願いも無視してオスプレイの沖縄追加配備が強行されました。

日本はなぜ、米国の「基地国家」になっているのか？その根源の「安保条約」はどのように結ばれ、どのように変質してきたのか？日本の現状を見つめるための企画です。

平和に向かって一わたしたちにできることを一

・「東京大空襲訴訟」を知っていますか？

戦争で被害を受け傷ついた子どもたちを、国が保護せずに切り捨て見殺しにしたままでゆるされるのか。戦争を長引かせて国土と国民に甚大な被害をもたらすまで方針変更できなかった国策の誤りは、原発事故にも表れています。「日本国憲法」の下で平和と人権回復を願って闘った裁判の報告をします。

・「さよなら原発」実現のために 地域から

2013年5月19日、区内の様々なグループが集まって「原発いらない さよなら原発品川パレード」を行い、170名が参加しました。品川の中でも、毎月の署名行動、安心・安全お買い物マップづくり、食品の放射能測定活動などいろいろな取り組みが行われています。

実物が語る戦争

戦争中使われた品物を展示します。兵隊さんに送る慰問袋、千人針。ゲートル、当時の写真、戦争中の地図、遊び道具、などなど。実物から戦争のことを語り継ぐきっかけにしてほしいと思っています。分からないものは、声をかけて聞いてください。

私たちの戦争展は個人の募金によって開催されています。募金にご協力ください。

第30回平和のための戦争展開催にあたって

1984年(昭和59年)手さぐりで始めた「しながわ平和のための戦争展」は、今年で30回目を迎えました。戦後68年。戦争体験を語れる人がますます貴重な存在になっています。一方、憲法9条を変え「戦争ができる国にしよう」という動きが急です。「戦争展」が、親子孫三代で「平和」について考える場になることを願っています。「戦争できる国にしたい」と思っている国民は決して多数ではありません。沖縄の1年生安里有生くんは「ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。」とっています。戦争のもたらすものを伝えること、戦争について考え合う場を作ることが私たちの一歩と考えています。

2013.8. しながわ平和のための戦争展実行委員会